

アメリカにおけるスポーツ

軍地 恵里子（大学2年）



この3週間、私達は毎日のアクティビティを通して多くのことを感じ、発見し、学んだ。地球の裏側にあるアメリカは日本に住む私にとって、人々、食べ物、文化や習慣など全てが新鮮に感じられた。その中で、特に私はアメリカのスポーツについて、日本とは異なる考え方や環境に関して興味を持った。

まず、アメリカのスポーツ環境である。端的に、それらは非常に充実しており羨望の一言しかなかった。公営ではない民間のジムに低価格で通えることができたり、子供たちが通うテニススクールやスイミング

スクールなどをあちこちで見かけたりした。また、多くの学校のクラブは教師ではなく、外部のコーチやボランティアが指導をする。生徒もより専門的な知識を学ぶことができ、教師もいわゆる日本のブラック部活動のような顧問の問題を一切背負うことなく教師の仕事だけを専念できる。非常に合理的なシステムといえるだろう。

そして、特にスポーツ環境について日本との違いを感じたことは、地域に密着したアマチュアチームが存在することだ。私がお世話になったホストファミリーは、子供達の所属の有無に関わらず、アメリカンフットボール、サッカー、野球などのシーズンになると地域の一員として家族全員で地元の高校の応援に行くそうだ。そのように、高校や大学のアマチュアチームでも地元にはサポーターが多く存在し、チームを支えているのだ。有名な学校ではグッズ販売などブランド化しているところまでである。公立学校でも何千もの観客を動員でき、ナイター照明や人工芝の設備が日本の学校とは比べ物にならないほど整っているのはそのような地域住民のサポートがあるからだろう。

次に、人々のスポーツに対する考え方が日本と異なる。日本は、スポーツ＝勝つもの、上手くやらなければいけないもの、などといったような考え方がどこか存在する。しかしアメリカでは異なる印象を持った。お世辞でもスポーツが得意であるようには見えない、体格の大きい女性が毎日のようにジムへ通っていた。(嫌味ではなく)なぜ通っているのかと聞くと、汗を流して身体を動かすことが楽しい、昨日よりできることが増えたり、速く走れたりすることが嬉しい、と彼女は答えた。その時に、本来人々がスポーツをするのは、試合に勝ち相手より優位に立つ為や監督、親の機嫌をとる為ではなく、単純にスポーツが好きで楽しいからであると気付かされた。何のスポーツでも、上手くなれば相手に勝ちたいという気持ちが自然と伴ってくるのは当然だが、それらのベースであるスポーツが楽しい、という気持ちは最も忘れてはいけないことだと実感した。

また、2014年のデロイトトーマツの調査によると、日本の民間フィットネスクラブの利用率が3.3%であるのに対し、アメリカは17%もの国民が利用している。このようにアメリカの人々が生活の一部としてスポーツを楽しんでいるのは、前述したようにアメリカのスポーツ環境が整っていることと関係している。日本のフィットネスクラブは月額1万円ほどが相場であるが、アメリカのフィットネスクラブの相場は月額35ドルから40ドルだそうだ。月額が安ければ利用者も増え、さらに価格を安くできる。しかし、日本のようにいくら健康ブームとはいえ利用者が少なければ経営が困難になり、価格を上げざるを得ないのが現状であろう。その為、アメリカは日本より気軽にスポーツを行うことができるのだ。

以上のことから、アメリカにおけるスポーツは、人々にとってより身近な存在であるといえる。そして様々な健康問題を抱えている現代日本においても、より多くの日本人がスポーツを日常の中に取り入れ、スポーツと生きることによって、良い影響がもたらされることを願うばかりである。